
歴史～平成24年12月

関西大学ラグビー部、31年振りにAリーグ復活。クレバーなんて表現が似合うスクラムハーフが、自由自在にフォワードを動かし、決定力のあるバックスに素早くボールを供給する。宝ヶ池ラグビー場で開催された大学ラグビーのAB入れ替え戦、パワーが売りの外国人選手のぶちかまして善戦を続けたAリーグ最下位の摂南大学に32対17で勝利した関西大学の歓喜の瞬間に立ち会う事ができました。



31年前・・・昭和56年と言えば、世紀の歌姫、山口百恵が「さよならの向う側」を歌ってマイクのコードを切って引退した頃で、当時の私は大学生。意外にも京阪電車で毎日、京都に通って単位の履修に努めていました。片道2時間の通学で、大和田駅に到着すれば、駅前の「煉瓦」なる喫茶店で一服してから自転車で帰路につくのが日課でした。ここのコーヒーは香り高く、しっかりした苦味の中に程良い酸味が調和する最高の逸品で、心地よい空間でマスターや従業員一同に常連客の皆さんからも、可愛がっていただきました。

ある時、マスターから「ラグビー観戦はしないの？」と聞かれて

「高校の体育の授業で受けた覚えはあるけど、身体弱いし痛いし、ルールもわからないから興味ありません。」なんて答えたところ・・・

冬のスポーツと言えばラグビーで、正月はラグビー観戦するのが当たり前で、しかも京都産業大学と言えば、ラグビーの強い大学だし、自分の大学に誇りを持つなら、大学に通うだけでなく大学の特色として強いスポーツを自分の目で見て他の人たちに伝えられる人になりなさい。などと、説教(いや、正しい道に誘導?)されまして、それからテレビで大学選手権の早明戦、日本選手権の新日鉄釜石を見てから、花園ラグビー場で京都産業大学の試合の観戦をスタートし、招待券貰ってハイパー筋の大阪府警の応援、ひたむきなタックルの日新製鋼に魅せられ、高校ラグビーから国際試合までを観戦する現在に至っています。

京都産業大学のラグビーと言えば、ラグビー観戦の原点であって、このチームが強くなければ、私のラグビーファンとしての30年の歴史を否定されるような気がします。



宝ヶ池ラグビー場、関西大学のAリーグ復活の次は、リーグを同志社大学・大阪体育大学と同率で並ぶ混戦から順位決定基準により7位となった京都産業大学と、外国人パワーでBリーグを2位で通過した勢いのある花園大学の対戦です。

先制は、京産伝統のスクラムからのフォワードカのトライでしたが、次はこぼれ球を奪った花園のトライで同点。13番のロットアヘアの動きが素晴らしく上手にボールを奪い取って、抜群の突破力で京産フィフティーンを翻弄するだけでなく、逆転のトライ。この時、嫌なムードが漂いましたが、京産得意のラインアウトからのフォワード攻撃が功を征し、前半を22対14で折り返します。

最終的には、力尽きた花園大学を46対21で圧倒。無事Aリーグ残留となりました。この試合のMVPは途中出場の泉森。ロットアヘアの猛攻を見事な集中力で止めて、試合の流れをぐいはこちらに手繰り寄せました。走力と突破力を兼ね備えた下良・中野の1年生の両ウイングも素晴らしいし、シーズンを通して活躍した3年生の三原・山下もあと1年頑張ってください。また、伝統のスクラム復活にも期待しています。



ラグビー部の歴史、そして私のラグビーファンとしての歴史を肯定してくれた後輩たちに感謝すると共に、来シーズンの飛躍を期待しています。

頑張れ、京都産業大学ラグビー部！！

平成24年12月9日記

Top
[トップ](#)
[へ](#)

Back
[戻る](#)



フェイスブックで綴る～平成25年12
月